



Unknown World

-見慣れた光景とその向こう側-

本館6階 美術画廊【総合】

美術作品は、意味を伴う言語ではなく、色や形を伴う素材から生成されるものである。その中でも、美術家たちが何を捉え、いかにして表現世界へと組み立て直したのかを読み解き、ひいては造形そのものがもつ力を味わうことができる独自の造形言語を確立した9名の美術家による作品を展覧。

【出品作家】秋山 陽(陶造形)・上田 泰江(油画)・岸本 吉弘(油画)・木戸 修(彫刻)・草間 喆雄(ファイバー)・小島 徳朗(日本画)・児玉 靖枝(油画)・重松あゆみ(陶造形)・西野 康造(彫刻)＜敬称略・50音順＞

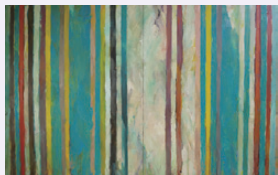
テキスト：深谷訓子

(京都市立芸術大学総合芸術学科准教授)

11.5 WED~11.10 MON

(上)岸本 吉弘「Uptight」
H162.1×W260.6cm
キャンバスに油彩、蜜蝋

(下)重松 あゆみ「Sky Resonance」
H55.6×W54×D39.2cm
陶



TRUE⇔COLORS

飯田 信雄×加賀城 健

本館6階 美術画廊X【写真・染色】

写真家・飯田信雄氏と染色家・加賀城健氏による展覧会。独自の撮影方法により、花や自然などを被写体とした抽象絵画のような写真作品を制作する飯田氏。

一方、伝統的な糊を用いた染色技法を現代的に再構築し、空間・記憶・感覚に訴えかける作品を発表する加賀城氏。今展では、写真と染という異なるメディアが交差し、色と色が響き合い、時に干渉し合うことで、色彩のハレーションとも言うべき視覚的な揺らぎと共鳴を生み出す空間構成を試みます。

11.5 WED~11.24 MON

(上)飯田 信雄
「TrueColors - #15」
サイズ可変
ベニヤパネル、ジェッツ、UV プリント
2025

(下)加賀城 健
「Transfer-dyeing (シアター)」
H72.7×W91×D3cm
綿布、染料、パネル
2025



岸野 寛展

本館6階 美術画廊【陶芸】

1975年京都府生まれ。現在は伊賀市の工房で野趣あふれる本格的な伊賀焼を追求。伝統を踏まえつつも独自性のある力強い造形と薪窯から生み出される豪快な自然釉の流れが魅力。焼き味を追求し、窯の詰め方や焼成後の冷まし方にまでこだわり、自らの個性を作品に反映させようと試行錯誤を繰り返す。また、焼締め作品とは対照的な、柔らかさ、温かみを醸し出す白釉作品も発表。5回目の開催となる今展では茶碗や壺、花器、鉢、酒器などを出品。

11.12 WED~11.17 MON

「焼バ大壺」
H40×W35.5cm
陶



-過去からのタカラモノ-

糸井 康博 展

本館6階 美術工芸サロン【陶芸】

京都府生まれ、京都府立陶工高等技術専門学校卒業。現在奈良県内で制作。奥深い窯変の陶芸家、鎌田幸二氏に指導を受け、陶芸の道に入る。奈良の遺跡の出土品のカケラから想像を膨らませ、作品を制作する糸井氏。倭と灰釉から進化させた硝彩の茶盃、香炉、壺、花器、酒器や楽しい器を出品。日本橋高島屋初個展。

11.5 WED~11.10 MON

硝彩器「Tsumugu」
H16cm×Φ53cm
陶



野村 京香 展

-赤に染まる-

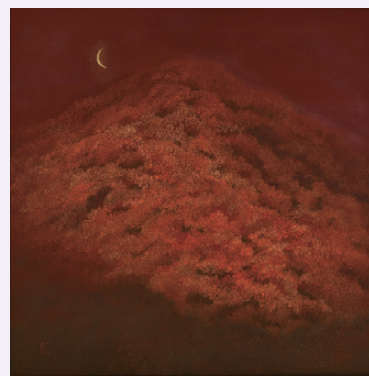
本館6階 美術画廊【日本画】

1992年富山県生まれ。2016年京都芸術大学大学院修士課程修了。日本独自の四季や湿度を感じる作品を目指し、毎年訪れる季節にもほんの少し違う風景・香り・空気・音などの物語を感じとり、人々が見たことのあるモチーフを題材に心象風景として制作。

今展では、秋を題材とした作品を多く発表。燃えるような赤をテーマに、自然の力強さや、まだ見ぬ桃源郷の気配を展覧。

11.12 WED~11.17 MON

「彼方」
H91×W91cm
紙本、岩彩

-一時忘れの万華鏡と
鍍金の世界2025-

関井 一夫 展

本館6階 美術工芸サロン【金工】

1956年新潟県に生まれ、1983年東京芸術大学大学院研究科鍍金専攻を修了。自身が長い年月修練した金属工芸の鍍起という技法を用いて、个性的な外観に加え様々なオブジェクトを操り、絵画的ともいえる深みのある世界感を表現。独創的な万華鏡のアート世界を約30点、展覧。

11.12 WED~11.17 MON

「翡翠万華鏡」
H30×W12×D12cm
真鍮、ガラス等



—日本—
HINOMOTO
奥谷 博 展

OKUTANI HIROSHI 藝術無終

弊社では13年振りとなる本展では、文化功労者にして、文化勲章を受章された奥谷博氏が「日本画と洋画の融合」「日本人の油絵の確立」を目指してきた直近の代表作から最新作まで、『『藝術無終』私にとって絵を描くことは、生きることだ。』と語る、奥谷博氏の祈りの言霊を大作から小品まで一堂に展観。また、本展では『月刊美術』にて描き下ろし連載『藝術無終』(2024年9月～2025年8月)の作品原画もあわせて展観。

【ギャラリートーク】

11月22日(土)午後3時より

11.19 WED～11.24 MON

「HINOMOTO－ひ潮みち潮」
F150号
キャンバスに油彩



前田昌良の絵画と
小さな動く彫刻の世界
「森を測るひと」

1956年大阪市生まれ。1981年東京造形大学造形学部絵画科卒業。1983年東京藝術大学大学院修了。2011年作品集「星を運ぶ舟」(求龍堂)を上梓。2014年横須賀美術館にて特集展開催。木、鉄、針金、鉛など様々な素材を駆使して制作された小さな動く彫刻と日常のふとした風景を物語を感じる心温まるタッチで描いた絵画を約40点展開。

11.26 WED～12.1 MON

絵画「夜のしじま」
H53×W72.7cm
油彩、キャンバス
立体「森を測るひと」
H21×W19.5×D19.5cm
木、塗料、鉄、その他



名倉 達了 展

愛知県生まれ。2011年東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修士課程修了。自身の彫刻家としての活動も下地に、現代的な鑑賞にも堪えうる普遍的な美を、和硯で表現。現代における硯の存在意義を問いなおし、その新たな役割を探索する名倉氏の日本橋高島屋二度目となる個展。

11.26 WED～12.1 MON

「硯に就て－せかいのきげん－」
H10.5×W13×D13cm
鳳鳴石



宮本 果林 展 -日々-

本館6階 美術工芸サロン【陶芸】

茨城県生まれ、女子美術大学工芸専攻卒業後、茨城県立笠間陶芸大学校研究科を卒業。ここ数年で何気ない日常に輝きを感じるようになったと語る宮本氏。その心境の変化から、日々の暮らしの中で浮かんで消える感情を生き物の姿で表したいという思いで制作に励む。迷いや葛藤、忘れることのできない悲しみ、乗り越えた先に見つけた小さな希望、言葉では形容しがたい感情の揺らぎそのものを表現するため、使用する粘土を見直し、陶土でありながら透明感のある作品づくりを試みた日本橋高島屋初個展。

11.19 WED～11.24 MON

「月に問う」
H35.5×W49×D26cm
陶



伊藤 北斗 展

本館6階 美術画廊【陶芸】

1961年東京都生まれ。1989年東京藝術大学大学院陶芸専攻修了後、人間国宝の藤本能道氏の内弟子として色絵磁器を学ぶ。鳥や動物、植物などを象徴的に捉えた詩情的な文様表現で独自の世界を築く。何度も焼成し色を塗り重ねることにより深みのある複雑な発色を生み出す、釉刻色絵金銀彩という独自の技法を確立。その色彩は深く、それぞれのモチーフがハーモニーを奏でるような表現となっている。壺の中には、表面の幾何学模様とは異なる、やわらかな抽象的な絵付けが施されるなど、多彩な技法や工夫があり、見るものを飽きさせない魅力がある。今展では花器、壺、香炉、皿、酒器など100余点を出品。

11.26 WED～12.1 MON

「釉刻色絵金銀彩茶盤」
H9.7×Φ12.3cm
陶



大河原 愛 展

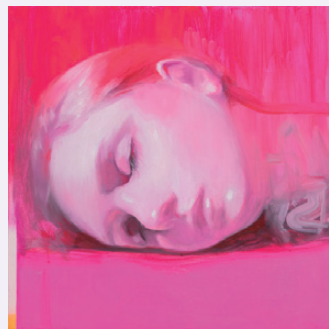
本館6階 美術画廊X【現代アート】

「鼓膜に残る静寂を優しさに変えるすべについてII」

大河原氏は幼少期に心の傷を抱えたことを背景に、人の心の闇と光について考察し、それらをどう絵画に落とし込むかを追求し制作している。人や動物を描いた油彩、パステル画、コラージュなどの新作25点余りを展観。

11.26 WED～12.15 MON

「世界に溢れる苦悩を、包み込めたらと」
H30.2×W30.2cm
キャンバスに油彩



		11月																													
		1 土	2 日	3 月	4 火	5 水	6 木	7 金	8 土	9 日	10 月	11 火	12 水	13 木	14 金	15 土	16 日	17 月	18 火	19 水	20 木	21 金	22 土	23 日	24 月	25 火	26 水	27 木	28 金	29 土	30 日
本館6階	美術画廊	鎌田 幸二 展			準備会場	Unknown World						準備会場	野村 京香 展					準備会場	奥谷 博 展					準備会場	前田 昌良 展 ※12月1日(月)まで						
		豊海 健太 個展											岸野 寛 展												伊藤 北斗 展 ※12月1日(月)まで						
	美術画廊X	北川 健次 展			準備会場	TRUE⇄COLORS 飯田 信雄×加賀城 健																				準備会場	大河原 愛 展 ※12月15日(月)まで				
	美術工芸サロン	二見 光宇馬 陶仏展				準備会場	糸井 康博 展						準備会場	関井 一夫 展					準備会場	宮本 果林 展					準備会場		名倉 達了 展 ※12月1日(月)まで				
2 本階館	アート アベニュー	清水 真由美 展																		準備会場	鯨虎 じょう 展 ※1月12日(月・祝)まで										

誠に勝手ながら都合により催内容、会期など一部変更または中止となる場合がございます。営業日・営業時間、催内容、会期の最新の情報は高島屋ホームページをご覧ください。



高島屋各店美術画廊・展覧会のご案内はホームページでもご覧いただけます。

高島屋 美術

検索

